

【ものづくり 人づくり 地域づくり】

もうすぐみそづくり

今週 1 月 2 回の注文用紙は、
・年明け (1/5 ~ 9) に回収します。
・お届けは 1/12 月 ~ 1/16 金です。

その前にまずは



みそ開き

やっぱりおいしい手前みそ

★手作りみそ用大豆の企画は 1 月 3 回スタート



供給職員もみそ開きを行いました。上手にできました！(12/5)。

年が明ければ毎年恒例の「手作りみそ月間」が始まります。昨年は 514 人の組合員家族が 1.3 トンの大豆を使って味噌を仕込みました。


ところで・・・

昨年仕込んだみそは開きましたか？

まずは、お味噌汁にしてわが家の味噌を楽しんでください。

先日、供給担当者も昨年仕込んだみそを開きました。色、香り、味、ともに納得の出来栄でした。新年から 2 月にかけて開催されます「みそ講習会」に持参の予定です。ぜひ、味見してみてください。

【年末年始の予定】 ※ 12/17 現在の予定です。

●地域での活動・催し●	●基幹運営・対外関係●
<p>○ 12/25 (木) 綿畑収穫</p> <p>10-12 時 龍ヶ崎共同農場</p> 	<p>○ 12/22 (月)</p> <p>「第 8 回定例理事会」</p> <p>守谷中央公民館 10-13 時</p> <p>○ 1/10 (土)</p> <p>新センター上棟式</p> <p>守谷市本町の本部工事現場</p>

新配送センター・本部 着々と工事が進んでいます。



12/15 から鉄骨の組合上げが始まり、全体の輪郭もはっきりとしてきました。今後は、1 階部分の土間コンクリート敷設、屋根の取り付けに進みます。

今年の味噌用大豆は

八郷の島田さんに代わって、地域の同じ仲間の飯塚さんの大豆です。

「猛暑」「台風」「カメムシ」。 大豆栽培には厳しい年になりました。

常総生協の手作りみそ用大豆（タチナガハ）を10年以上栽培して頂きました島田さんですが、2013年からの2年間はとても忙しく、「どうしても生協用の大豆が作れない。申し訳ない」ということで、お仲間の飯塚さんをご紹介頂き、作付していただきました。



■生産者の飯塚光一さん

島田さんの地域の仲間である飯塚さんは、島田さん宅のすぐ近くにお住まいで、代々続く農家の長男。飯塚さんで6代目です。お米を中心にトマト、人参、小麦、大麦、大豆を作付。トマトジュースの原料トマトの契約栽培もしており、「すごく甘くて自信がある。出来たら生協にも分けてあげたいくらいだよ」と飯塚さん。大豆はタチナガハの他に、おなじみ「やさと納豆」の原料「小粒大豆」も作付けしています。

手作りみそ用大豆の生産を引き受けて頂いた飯塚光一さん。

■栽培方法は今まで通り

飯塚さんはとても気さくな方で、「島田さんにも頼まれたし、頑張るよ」と快く引き受けて頂きました。

常総生協の取り組みについても理解をしてくれました（栽培方法は初期除草剤1回、夏場の殺虫剤なし、色彩選別なし）。

「今は、トマトや人参1つとっても、形や大きさが違うだけで買い取ってもらえない時代。そんな中、多少色が着いた見栄えの悪い大豆だとしても組合員に説明して利用してもらうことは大変なことだろう。でもそんな生協さんに関われるのもうれしいよ」と飯塚さん。



選別前的大豆。品種は「タチナガハ」。種蒔き前に除草剤1回。あとは農薬散布なし。見た目は「キレイ」とは言えませんが、味噌には申し分なし。

また、正直な想いとして「生協の栽培方法は守りますが、ただ作る立場としては出来るだけたくさんの実りを得たい。夏場の殺虫剤を撒くのと、撒かないのでは収穫量に大きく差があるので、たとえ少量を高く買い取ってもらえたとしても、作り手からすれば少額でもたくさんの収穫を得たいのが本音でもある。無農薬で栽培して、たくさん収穫出来ればいいが、大豆はそれがなかなか難しい」と飯塚さん。

今シーズンも引き続き、大豆の栽培にとっては過酷な年でした。夏は猛暑が続き、秋口の台風。カメムシの来襲もありましたが追加の農薬散布はしませんでした。

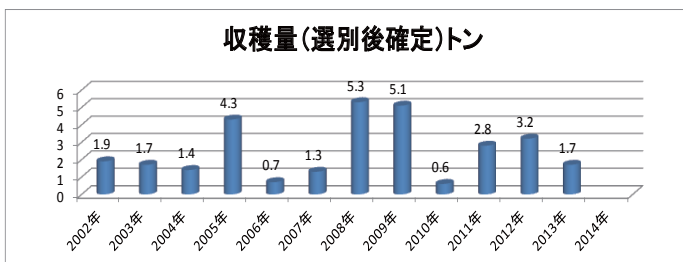
カメムシの来襲！今シーズンも大豆栽培にとって過酷でした（石岡市大塚地区）



食のグローバル化に対抗するには、まずはローカル（地元）から！
常総生協組合員の「手作りみそ運動」20年。
「地元の大豆を地元の消費者がみそにする。」
それは地元の畑を自分たちが守ること」

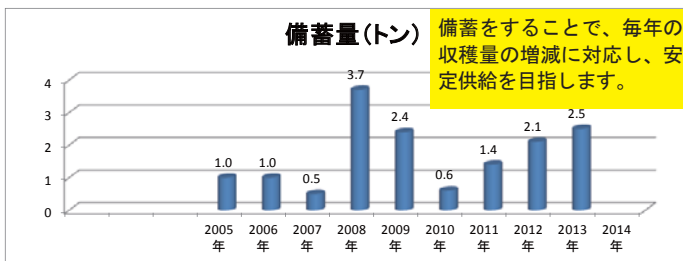
※手作りみそ用大豆は1月3回より供給開始。みそづくり講習会も各地区で開催（詳細後日）

常総生協 手作りみそ20年の歴史。
天候不順による大豆収穫量の激変に対応し、
安定供給のために、
『備蓄』を実施しています！



●収穫が天候に左右されやすい大豆

大豆栽培の契約面積は約4haですが、大豆はその年の天候によっては大きく収穫量が増減します（2008年、2009年のように5トンを超える年もあれば、2010年のようにわずか0.6トンの年も）。



備蓄をすることで、毎年の収穫量の増減に対応し、安定供給を目指します。

常総生協の「手作りみそ」に必要な大豆は毎年約2トン。過去の経験から非常時に備え、2005年より組合員に「基金」を募り、備蓄を行っております（大豆基金）。詳しい収穫量は年明けの選別作業ではっきりしますが、今年が極端な不作だとしても、**昨年備蓄した「25年産大豆」**で乗り切れそうです。

飯塚さんが一生懸命作った大豆で
今年もみんな味噌づくりしましょう！

昨シーズンは
514名の組合員がみそを仕込みました！

「みそづくり講習会」に
ご家族、お友達連れでご参加ください！



- ・手作りみそを始めて20余年。地域でもみそづくりをする方が増えてきました。嬉しい事です。
- ・さて、今年はより「みそづくり人口」を増やすために、御家族やお友達も参加しやすい土曜日開催にしました。

■現在、以下の会場が決定しています■

※今後、開催会場は追加されます。後日配布されるお知らせをご確認ください。

- ・1/24 (土) 守谷・高野公民館
- ・1/31 (土) つくば・小野川交流センター
- ・2/7 (土) 我孫子・我孫子南近隣センター
- ・同日 松戸・小金原市民センター
- ・2/14 (土) 牛久・生涯学習センター

「脱原発と暮らし見直し委員会」報告

11月・12月度の委員会の活動についてお知らせします。

1 「小さな上映会」

DVD ライブラリーの貸し出しが始まりました。手順は①貸し出しカードと返却カードへ記入。②供給便で受け渡し。③貸し出し期間は1週間。地区での上映会には、委員会も協力しますので、お申し出ください。

★この件を中心として、1月半ば過ぎに、委員会としてのアンケートを実施する予定です。

2 放射能検査データ収集に関して

1) 意義

常総生協では事故後すぐに空間線量や土壌汚染を調査計測しました。その後、自治体も主に持ち込み食材の計測を始めました。時間の経過とともに検査件数の減少が見られますが、セシウム137の半減期は30年。まだまだ油断できません。そこで、委員会では、各自治体のホームページに公表されている測定結果を記録する活動を始めることになりました。

2) 分担

各自治体の対応一覧表を10月に配布しましたが、ご覧いただけましたか。自治体ごとに担当者を決め、毎月公表される検査結果をエクセルデータとして集積していきます。組合員の中からお2人お手伝いの申し出があり、13の市町・機関について取り組みが始まりました。

★組合員数の多い土浦は、人手不足で現在担当する人がいません。どなたか地域と子供たちのためにお手伝いをお願いできればと思います。

3) 情報交換

担当者より各自治体のデータ公表の特徴や数値の動きについて発表がありました。

- (1)放射能の測定自体は続いているが、結果は公表しない、すでに公表を止めたなど対応はまちまち。測定対象も家庭菜園など持ち込まれた地元の農産物が中心だが、販売目的の産物や一般流通品も測っている自治体もある。
- (2)測定方法・内容など工夫が見られる自治体もある一方で、中止されていた食材の数値が国の基準より下がったという理由から学校給食に再び使われているケースもある。
- (3)全体的に、検出数値は低下してきている。これはセシウム134の半減期が2年と短いため。3年間で検査総数も減少している傾向があるが、たけのこ、キノコ、果実類（特に栗・柑橘類）、川魚などで続けて検出されている。

★全国の市民測定所のネットワーク「みんなのデータサイト」検索してみてください。

3 「放射能から子どもを守ろう関東ネット」の活動から

(当委員会から稲垣さんがメンバーとして参加しています)

(1) 「知る見るリーフレット」(検診編)

子育て中のご家庭を対象に作成し、無料配布しています！(下記申込書)。

「保養ガイド編」は好評で増刷予定。次号の「暮らしのデータ編」の内容を2回にわたり検討しました。暮らしの中で気を付けることや3年間の食品・環境調査のデータ、ストロンチウム計測の今後など紹介する予定です。



(2) 環境省主催の専門家会議で、

“関東は健康調査不要”という判断が下りそうです。そこで各自治体から国へ健康調査に関して要望を出してもらるように、自治体に要望書を提出しました。

★「A2-B-C」の上映会 (11/26-29)

委員会からつくば市の数値を表やグラフにしたパネル、関東ネットからもリーフレット紹介のパネル展示を行いました。若いご夫婦から、年配の方まで、多くの方に見て頂き意見を交わしました。(4回上映で計217名の参加)

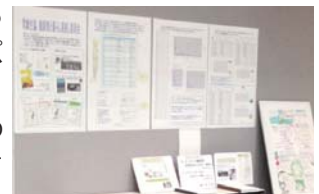


写真 小森谷さん提供

4 市民科学者国際会議

11月22日から3日間、代々木で第4回市民科学者国際会議が開かれ、「緊急時対応と放射線防護」の部会で、副理事長大石さんが原発事故当時と事故後の常総生協の経験と対応について発表しました。

小出裕章さんの講演があり、また世界中の研究者が真剣に福島事故後の日本についての意見や分析、研究の成果を述べました。全国からの参加者も熱い議論に参加していました。

5 次回の委員会

1月9日(金)10:00から守谷中央公民館で開かれます。どなたでもお気軽にご参加下さい！。

キリトリ

子育て中のお母さんへ



「知る見るリーフ」申込書

← 検診編 保養編 →

(○をつけてください)

コース名 班名

お名前

